



新春

賀正



にかほ市長

横山 忠長

新年明けましておめでとうございます。市民の皆様には、お健やかに新年をお迎えのことと、心からお慶び申し上げます。また、日ごろから、市政全般にわたり深いご理解とご協力を賜り、心よりお礼を申し上げます。昨年、当市で開催されました「第百三十一回秋田県種苗交換会」につきましては、県内外から大勢の皆さまをお迎えし、盛会の内に終了することができました。これもひとえに、関係団体の皆さまはもとより、多くの市民の皆さまのご協力の賜ものと深く感謝を申し上げます。

本年は、「にかほ市」が合併して4年目に入り、市勢発展のため重要な年になるものと考えております。今後も、市政の基本理念であります「市民と行政の協働のまちづくり」を一層進めると共に、大変厳しい財政状況が想定される中で、職員一丸となって地域の発展と、行政サービスの一層の向上を図る決意であります。

新しい年が皆様にとりまして、光り輝くすばらしい年となりますよう、ご祈念申し上げます。新年のあいさつといたします。

にかほ市議会議員

竹内 睦夫

新年明けましておめでとうございます。皆様には新しい年を健やかに迎えられた事と心よりお喜び申し上げます。本年も、市民お一人お一人の御多幸を心から御祈念申し上げます。

さて、いつの時代からか、新しい年のことを「新春」という短い言葉にして、おめでたい言葉の代名詞として私達の生活に浸透し使われてきました。新暦の前に使われていた旧暦では季節の移り変わりをよく表しており、農業国日本の日常生活の営みに活用されていきましたが、気候風土に大きな違いのある東北日本海側の降雪地帯と関東以南の太平洋岸地域では、とらえられる生活感もだいぶ違ったものとなるのも又仕方ないのかなと思われます。また、物事全てについて、正面を良しとしなくても、とらえ方一つで先の方向が大きく変わってしまうことがあります。このことは、よくよく考えて判断しなければなりません。ことであり、「新暦と旧暦」の違いと同じ事でしょう。

合併しての新市「にかほ市」が4年目を迎える今年、古い殻を脱ぎ捨て新しい見方をもって、新しい年の課題に積極的に取り組んでいかなければならないし、議会一同、意を新たに新春を勤めてまいりたいと考えております。